

園芸部

鹿児島県技術「サヤインゲン(手無し)ズベリン処理栽培」の紹介



1株1本の支柱を立て、外に紐を張り今後出てくる側枝を支えるそうです。(収穫後半の4~5月はかなりの繁茂状態になるそうです。)

本県は夏秋期のサヤインゲンの国内最大の産地ですが、県内の主力産地において高齢化による栽培面積の減少と猛暑による収量減により、出荷量減少の歯止め対策が喫緊の課題です。本県とは栽培の季節が逆ですが、サヤインゲンを盛んに栽培している鹿児島県では、通常は草丈が伸びず屈んで収穫を行う手無しインゲンに、ズベリン処理を施すことで、約半年ほどの栽培期間に反収3.5tを超す収穫量を実現しています。そこで、昨年12月に県内主力JAの営農指導員の方々と鹿児島県を訪問し、現地圃場の見学と対策の詳細について、この技術を実践しているJA鹿児島もつき(鹿児島県垂水市)のインゲン部会長様およびJA担当者にお話を伺いました。

鹿児島もつきでは、冬春作であることと桜島の降灰対策事業を活用し、インゲンはその多くが施設栽培を実施しています。

収穫期間が12月末~5月20日前後の場合は、播種を10月下旬に実施(直播き)するのですが、ズベリン処理は、播種から10日後に本葉が0.5~1.5枚に展開したタイミングで1回処理を行って行っているそうです。なお、草丈を伸ばす(節間を伸ばす)には、処理実施後4~5日の温度・湿度を上げることが最大のポイントで、温度は日中30℃前後、夜間は12℃以上をキープすること、湿度は常に90%以上を確保することを念頭に、ハウスの締切、通路に水を撒くなどの作業を実施するそうです。節間を伸ばすことは作業性の向上だけでなく、花に直接光線が当たり着莢が良くなり収量アップにつながるそうですが、この栽培方式での利点だと部会長は述べられておりました。部会長はこの栽培で反収3.5tを目標としているそうです。

JA全農福島では、この栽培方式を29年度夏秋時期に展示圃を設置して実証試験を行い、収量アップの検証を行いたいと考えております。各園芸センターより県内JAへ実施要請しますので、ご協力をお願いいたします。

なお詳細については、JAを通じ生産者の方へ情報提供していきます。この技術は下記の農林水産省HPでも概要をご覧いただけます。

http://www.saffrc.go.jp/docs/new_technology_cultivar/2015/pdf/new_tech2015.pdf#page=17

JAふれあい食材 おすすめレシピ

まかじきのバターぽんムニエル

2月にお届けする材料を使用したレシピです



●材料は2人分が基準になっております。
●盛付例はイメージです。
※材料の野菜がない場合は家庭にある好きな野菜をお使い下さい。

材料

- ・気仙沼産 まかじき切身……………2切
- ・大根……………1/2本
- ・水菜……………1袋
- ・バター……………10g
- ・ポン酢……………適量
- ・塩コショウ……………適量
- ・小麦粉……………適量
- ・サラダ油……………小さじ2

作り方

- ①大根はおろし、水菜は3cm程度に切る。
- ②まかじきに塩コショウを振り、小麦粉を塗す。
- ③フライパンにサラダ油をひき、②を焼く。焼き目がある程度ついたら、蓋をして中まで火を通す。
- ④火が通ったら、フライパンにバターを溶かし入れ、ポン酢を加えからめる。
- ⑤器にまかじき、大根おろし、水菜のをせ、ソースをかけたら出来上がり。

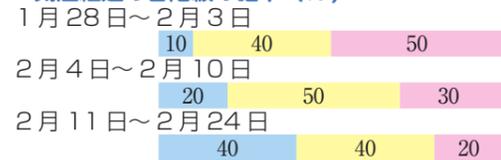
東北地方の長期予報

<予想される向こう1か月の天候>
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。
東北日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。東北太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
向こう1か月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。週別の気温は、1週目は、高い確率50%です。2週目は、平年並の確率50%です。3~4週目は、平年並または低い確率ともに40%です。

<気温、降水量、日照時間、降雪量の各階級の確率(%)>



<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■低い(少ない) ■平年並 ■高い(多い)
(仙台管区気象台 発表)

編集後記

ラジオ番組「旬の恵みに乾杯」の2月放送テーマは「いちご」。旬は春ですが、クリスマスケーキの店頭もあり、すっかり冬のイメージですね。2月に入ると一斉にいちごフェアが始まるのも、いちごの人気の象徴かもしれません。いちごが必要とされる季節に合わせ、農家さんの努力で、本来の旬を早めて出荷されるからこそ、店頭いちご大福が並びというわけです。
さて、スイーツの代表とも言えるいちごですが、今回のラジオ放送では「お酒に合ういちごの食べ方」をご紹介します。毎週月曜日12時20分から、共演のキリンビールさんと共に「いちご」にまつわる話題をお届けします。「いちご」がお好きな方はもちろん、「お酒」の味が気になる方も、ぜひラジオの放送をお聴き下さいね。

今月のイベント

2月2日	畜産部	和牛繁殖農家全体研修会
2月3日	畜産部	JAグループ養豚飼育者協議会全体研修会
2月8日	営農企画部	担い手支援担当者(TAC)パワーアップ大会
2月8日	園芸部	きゅうり振興セミナー
2月14日	燃料部	JA-SS運営者研修会
2月16日	営農企画部	JGAP産地リーダー養成研修会(~17)
2月17日	畜産部	酪農家全体研修会
2月20日	米穀部	米穀事業推進委員会

お詫びと訂正

「JAゼんのうふくしまだより1月号『今月のイベント』」の記載に誤りがありました。
深くお詫び申し上げます。 誤:「12月」→正:「1月」

ラジオ福島 午前5時15分~25分 放・送・予・定

「農家の皆さんへ」

2月6日	畜産部	生乳販売情勢について
2月7日	園芸部	営農相談室
2月13日	生産資材部	農業機械レンタル事業について
2月14日	米穀部	営農相談室
2月20日	JAライフクリエイト福島	JA葬祭事業について
2月27日	営農企画部	農技センター業務について

畜産部

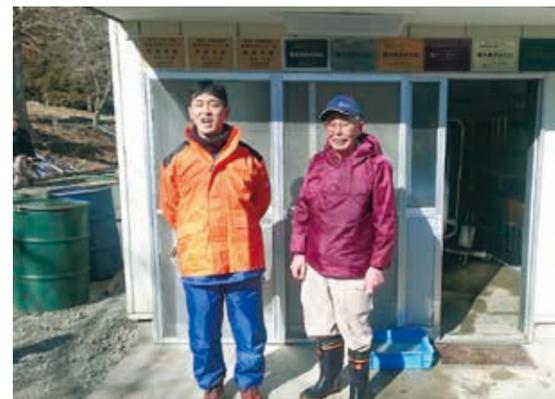
檜葉町「蛭田牧場」約6年ぶりの原乳出荷

原発事故による避難指示が解除された檜葉町にある「蛭田牧場」で1月24日、原乳の出荷が再開されました。飼養実証試験を経て、少しずつ確実に安全性を積み重ねながら、出荷再開の日を迎えた蛭田博章さんは、「乳を搾るうれしさ」をにじませながら「安全でおいしい牛乳をつくっていただくために、日々緊張感と責任をもって営農していきたい」と表情を引き締めていました。

約6年ぶりとなる酪農家の「日常」が蛭田牧場に帰ってきました。搾乳、餌やり、除糞や哺乳作業、こまめでは、昨年4月からの飼養実証試験でも行ってきたことですが、今日、この日、蛭田牧場に「集乳車」の姿がありました。震災前は当たり前だった酪農家の日常が、この約6年間蛭田牧場から失われたままでした。

今日のこの日を迎えるまでには、様々な苦難、課題が待ち構えていました。原発事故後の避難指示区域内では、初めての原乳出荷となるケースに、再開までの道筋も全くの手探り状態でした。そんな困難な状況でも、「安全な牛乳を生産したい」という「信念」と「責任感」がこの日「集乳再開」という形でようやく実を結びました。

集乳された原乳は、通常の放射性物質検査体制に加えて定期的な自主検査も行い、安全性を担保していきます。「安全でおいしい牛乳を生産すること、お世話になった方々への恩に報いたい」という蛭田さん。集乳車を見送るその後ろ姿には、新たなスタートラインに立った「酪農家」の決意が満ちていました。



笑顔の蛭田さん親子 (左が蛭田博章氏・右が父親の蛭田公氏)